

12 歳児 DMFT とは

12 歳児（中学 1 年生）の 1 人平均のむし歯の本数です。**むし歯になっている歯**だけではなく、**むし歯で抜いた歯**と**むし歯で治療した歯**のすべての合計の本数。1 人平均のむし歯の本数というより、**むし歯の経験歯数**と言った方が理解しやすいかもしれません。

DMFT の意味は以下の通りです。

D: decayed（蝕まれた）= 未処置歯（むし歯になっている歯）

M: missing（失われた）= 喪失歯（むし歯によって抜いた歯）

F: filled（詰められた）= 処置歯（むし歯で治療した歯）

T は歯です。

なぜ 12 歳児かというと、中学 1 年生くらいはちょうど大人の歯がはえそろう年齢です。12 歳を永久歯列のスタート、つまりもっとも永久歯のむし歯が少ないベースライン（基準となる年齢）ととらえています。

全世界的に用いられ、各国のむし歯の状況を比較するのによく使われます。